

CASBEE-広島 (2010年ver.1)
広島修道大学3号館

用途等で評価が不要となる項目については、自動的に網掛けが入ります
 欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE広島 2009年版
 ■ベース評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.3
Q1 室内環境			0.40					3.4
1 音環境		3.2	0.15	-	-			3.2
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-			
1 暗騒音レベル		3.0	1.00	3.0	-			
2 設備騒音対策		-	-	-	-			
1.2 遮音		3.6	0.40	-	-			
1 開口部遮音性能		3.0	0.30	3.0	-			
2 界壁遮音性能	ガラスウール(K24)充填遮音壁の採用	5.0	0.30	3.0	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	0.20	3.0	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	0.20	3.0	-			
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	-			
2 温熱環境		3.6	0.35	-	-			3.6
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	-			
1 室温設定		3.0	0.60	3.0	-			
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-			
3 外皮性能		3.0	0.40	3.0	-			
4 ゾーン別制御性		3.0	-	-	-			
5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
6 個別制御		-	-	-	-			
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-			
8 監視システム		-	-	-	-			
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	-			
2.3 空調方式	大講義室、エントランスホールは床吹出空調方式を採用	5.0	0.30	3.0	-			
3 光・視環境		3.4	0.25	-	-			3.4
3.1 昼光利用		3.4	0.30	-	-			
1 昼光率		3.0	0.60	3.0	-			
2 方位別開口		-	-	-	-			
3 昼光利用設備	トップライト、光庭の採用	4.0	0.40	3.0	-			
3.2 グレア対策		4.0	0.30	-	-			
1 照明器具のグレア		-	-	-	-			
2 昼光制御	南面窓にルーバーの設置、窓面を外壁面より785mm控えた位置とした。	4.0	1.00	3.0	-			
3.3 照度		3.0	0.15	-	-			
1 照度		3.0	1.00	3.0	-			
2 照度均斉度		-	-	-	-			
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	-			
4 空気質環境		3.2	0.25	-	-			3.2
4.1 発生源対策		3.0	0.50	-	-			
1 化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	-			
2 アスベスト対策		-	-	-	-			
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-			
4 レジオネラ対策		-	-	-	-			
4.2 換気		3.0	0.30	-	-			
1 換気量		3.0	0.33	3.0	-			
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	3.0	-			
4 給気計画		-	-	-	-			
4.3 運用管理		4.0	0.20	-	-			
1 CO ₂ の監視		3.0	0.50	-	-			
2 喫煙の制御	建物全館禁煙としている。	5.0	0.50	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.4
1 機能性		3.9	0.40	-	-			3.9
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.40	-	-			
1 広さ・収納性		3.0	-	3.0	-			
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0	-			
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-			
1.2 心理性・快適性		5.0	0.30	-	-			
1 広さ感・景観	近隣住民に配慮し、建物高さを抑える計画とした。	5.0	0.50	3.0	-			
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-			
3 内装計画	インテリアパース作成を行い材料選定を行った。	5.0	0.50	-	-			
1.3 維持管理		4.0	0.30	-	-			
1 維持管理に配慮した設計	メンテスペース、将来対応の為のスペースを設けた。	5.0	0.50	-	-			
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.1	0.31	-	-			3.1
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-			
1 耐震性		3.0	0.80	-	-			
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.5	0.33	-	-			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	打ち込みPC版の採用	5.0	0.23	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	ピット内を通過するダクトは材質をガルバリウムとした	4.0	0.08	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.15	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-			

2.3 適切な更新			-	-	-	-	
2.4 信頼性			3.0	0.19	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3	電気設備		3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.1	0.29	-	-	3.1
3.1 空間のゆとり			1.8	0.31	-	-	
1	階高のゆとり		1.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり		大講義室は設計上、ゆとりを持たせた。	4.0	0.31	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.6	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性	将来対応が容易なケーブルラック方式とし、縦シャフト、廊下上部に設置	4.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性	同上	5.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性	同上	5.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.3
1 生物環境の保全と創出		Ⅲ敷地内に十分な広さの緑地を確保しており、構内通路や広場にも植樹を積極的に行っている。 Ⅳ日照状態を考慮した植樹位置・樹種選定を行っている。 Ⅴ広場・屋上緑化の緑地には自動灌水装置を設置している。	3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		Ⅱ4)高さを既存建物群に合わせて低くし圧迫感を低減させた。 図書館棟に合わせ勾配屋根を採用、スカイラインを整えた。 設備機器が丸見えにならないよう、目隠しルーバーを設置した。 Ⅱ9)西風新都アーバンデザイン推進要綱の美観形成基準を満たしている。	3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		Ⅱ4)地域に根差した大学として、公開講座を開き地域住民の参加を呼び掛けている。 Ⅲ5)大庇下のピロティ、半屋外テラスを大々的に設けた。 Ⅳ6)広場の見通しを妨げないような位置に樹木を計画した。また、死角が生まれにくい建物回りの外部空間計画とした。	3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		1)図書館と新3号館の隣棟間隔を十分に取り、広場への通風を確保した。 2)敷地内に十分な広さの緑地を確保しており、構内通路や広場にも植樹を積極的に行っている。 3)2階にある空調屋外機置場の排熱位置を建物の屋上側に向けている。 南側の屋外機置場は広場から十分に遠い位置に配置した。	5.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	4.0
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.5
1 建物の熱負荷抑制		開口部が少なく、断熱性能の高い外壁・複層Low-eガラスの採用	5.0	0.30	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			4.5	0.20	-	-	4.5
2.1	自然エネルギーの直接利用	1. 階段M及びB1階コミュニケーションロビーにトップライトを計画	5.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用	エアフローーフを利用した外気予熱	4.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		高効率熱源機の採用、インバータによる搬送動力低減 ERR=35.2	5.0	0.30	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.7
1 水資源保護			3.8	0.15	-	-	3.8
1.1	節水	擬音装置、節水型便器の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.6	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	植樹散水用に雨水利用システムを採用	4.0	0.67	-	-	
2	雑排水再利システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.8	0.63	-	-	3.8
2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	高炉セメント(杭)、電炉鋼材(小梁)	5.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	打ち込みPC版の採用により型枠の利用を削減	5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.22	-	-	3.2
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.3	0.68	-	-	
1	消火剤	ハロン消火剤は利用しない。	4.0	0.33	-	-	
2	断熱材		3.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.7
1 地球温暖化への配慮		屋上緑化の採用	5.0	0.33	-	-	5.0
2 地域環境への配慮			3.9	0.33	-	-	3.9
2.1	大気汚染防止	ガス吸収式冷温水機に低NOXバーナー(40ppm以下)を採用	4.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善	敷地内緑化、庇の設置、クールチューブによる負荷低減等	4.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.6	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	

	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
	3	交通負荷抑制	大学内駐車場に至る長い校内道路の設置、誘導員の配置	5.0	0.33	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3	周辺環境への配慮			2.4	0.33	-	-	2.4
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
	1	騒音		3.0	1.00	-	-	
	2	振動		-	-	-	-	
	3	悪臭		-	-	-	-	
	3.2 風害、日照阻害の抑制			2.3	0.40	-	-	
	1	風害の抑制		2.0	0.70	-	-	
	2	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制			1.6	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		1.0	0.70	-	-	
	2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	